

(96) 岩手県遠野市の 大峰(おおみね)鉱山跡(2箇所)

参考文献(1)には、百数十件にわたる岩手県の鉱山が解説されている。この文献を手引きにして、大峰鉱山の探査に出かけることにした。本鉱山の鉱種は金、銀、銅である。主に、金、銅が採掘されていた。出かける前に、国土地理院の地形図、Yahooの地図サービス、Google Earth、をインターネットで呼び出し、室内の机上で、現地の前調査を行った。図1、図4が国土地理院の地形図である。図2が、Yahooの地図サービスからの地形図である。その写真版が図3である。

図1には鉱山記号が幾つか記されている。中央の灌漑ダムの近傍の2つの鉱山記号が、今回探査した大峰鉱山跡2箇所である。現在の地形図に、場所が明記されているので、探査は比較的容易である。図2に示している、Yahooの地形図中には、これら2つの鉱山の名称が記されている。「大峰鉱山跡」と「釜石鉱山跡」である。なを、鉱山名は、良く変更されることを知っていた方がよい。参考文献(1)では、この「釜石鉱山跡」の場所は、「日鉄大峰坑」と記され、共に、大峰の名を持っている。従って、今回、探査した2箇所の鉱山を共に「大峰鉱山」と呼称し、表題に用いることとした。図3のYahooの地図写真からは、現地の様子が明瞭に視認できる。これら3つの資料を持参し、現地の探査を行った。

現地への経路は次の通りである。花巻と釜石を結んでいる283号線を進み、釜石線の駅である青笹と岩手上郷の間当たりにある赤川地区にたどり着く。このあたりに、猫川に沿って、東に延びている側道がある。これに入り、猫川(図1参照)に沿って東進していく。側道に入ってから、7km~8kmで進行方向右側に大きなダムがある。ダムを右手に見て林道を進んでいくと、左手に現業中(今回の探査時で)の採石場がある。写真3で見える茶色い部分の左半分の部分である。採石場の方の道に入らず、ここから200m~300m更に林道を進んでいくと、進行方向左側に、側道が延びている。この分岐点には「大峰鉱山跡」の案内板が掲示されている。車はこのあたりに停車させておこう。

図4に、参考文献(1)に掲載されている鉱山付近地質図を、複写掲載しておく。猫川の文字の「猫」の所の分岐点が、前述の分岐点である。現地には、A、Bの鉱山施設跡は残っている。鉱山道を上へ上へと登っていき。いいハイキングルートでもある。最終目的地は喜助沢の上流にある露天掘り跡である。標高差約200m、1時間弱の登りである。以下で、写真を併用して、説明を行う。

日鉄大峰鉱山跡へは、林道分岐点を東の方へ直進していく。1.5km~2kmで、広場に行き着き、林道は行き止まりとなる。

探査日 2011年 8月

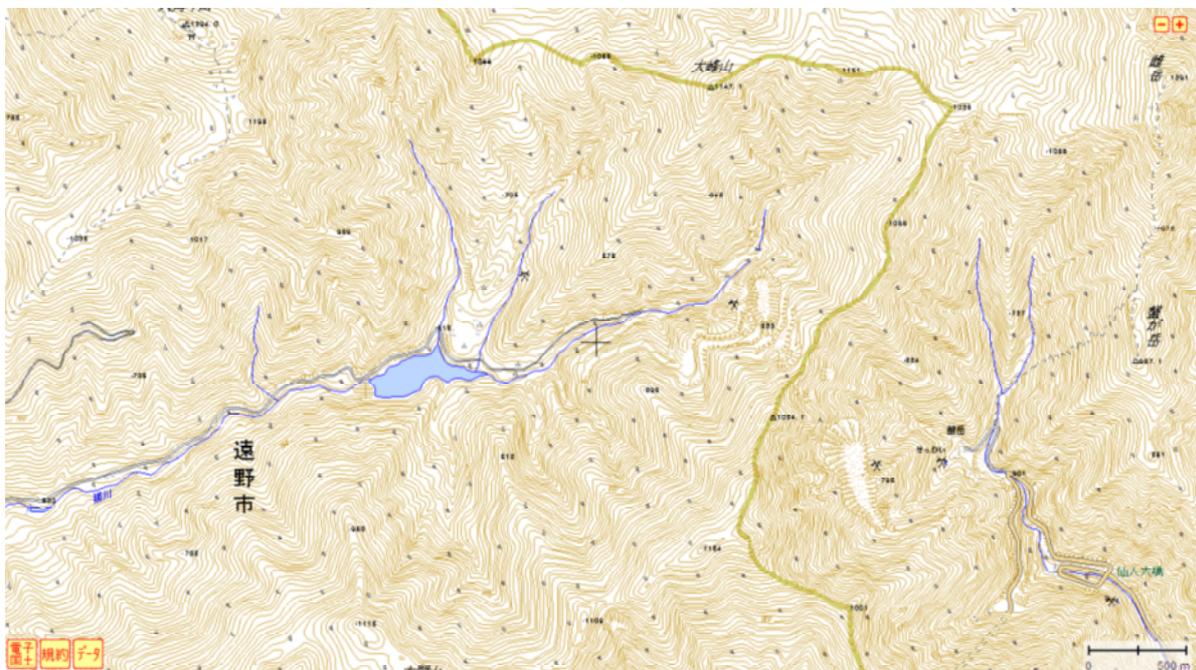


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。ダムの上と右手に鉱山記号が見える。今回探査した鉱山跡である。ダム当たりまでの道は砂利道ではあるが、幅の広い道である。ダム湖畔には、江戸末期に経営された史跡「比左内鉄鉱山跡」がある。案内標識が道路脇に立っている。肝心の鉱山跡は、ダムの貯水により水没した。

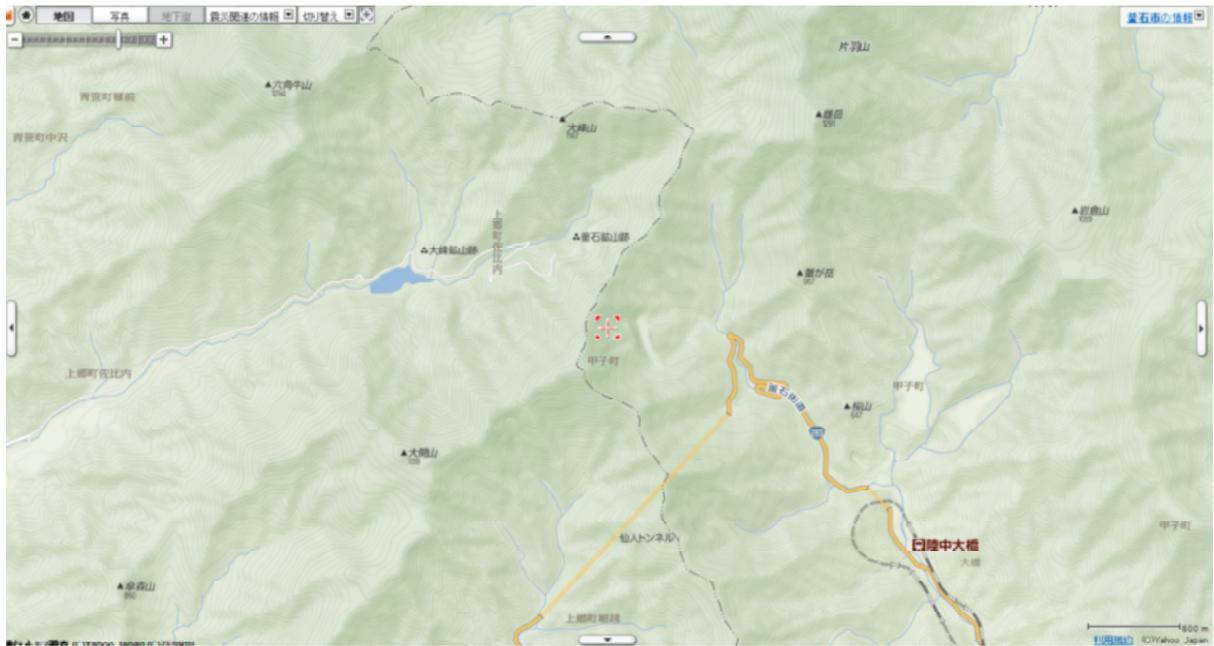


図2 Yahooの地図サービスより複写掲載。この地図には、大峰鉾山跡と釜石鉾山跡の名前が記されている。

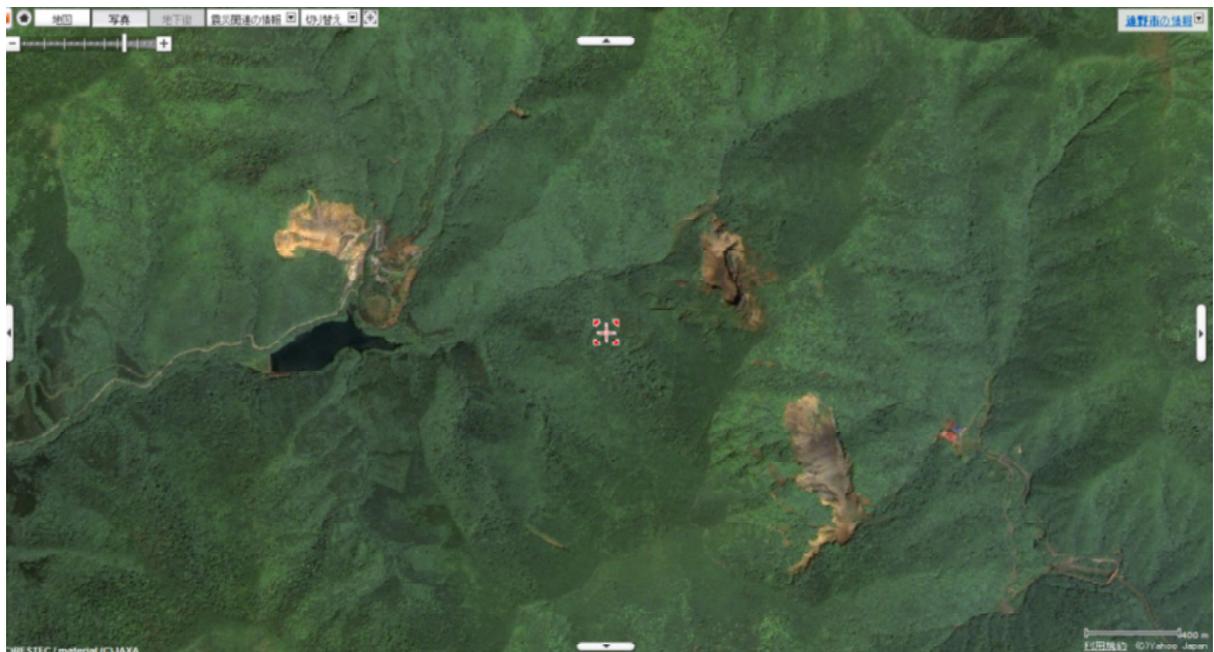


図3 Yahooの地図サービスより複写掲載。図2の地形図の写真版である。大きな荒れ地跡が3箇所見えている。上の左右2つが、今回探査した場所である。中央右下にも、鉾山跡らしいところがある。これは石灰鉾山らしい。製鉄には鉄鉾石だけではなく石灰石も必要である。幕末に、大島高任が釜石の山中に製鉄所を作っている。それ以降、近年まで釜石は製鉄で名をなしていたのであるが。

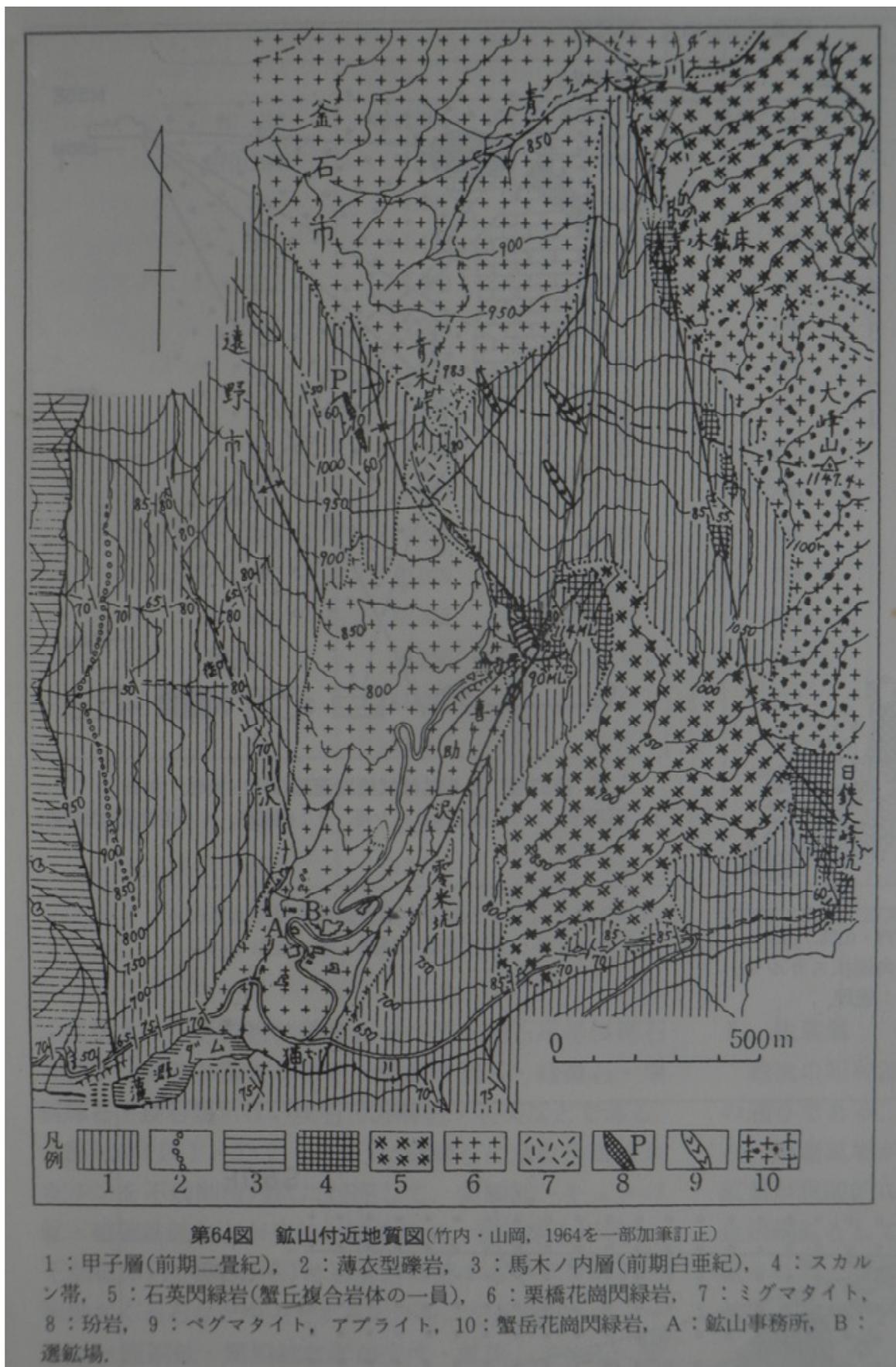


図4 参考文献(1)より複写掲載。現在でも釜山道は喜助沢の上流の合流地点までしっかりと残っている。良いハイキングコースでもある。行き着いた先には、一見の価値のある巨大な露天掘りの跡がある。零米坑は、その露天掘り跡に繋がっていた。付近には青色の銅の2次鉱物が転がっていた。

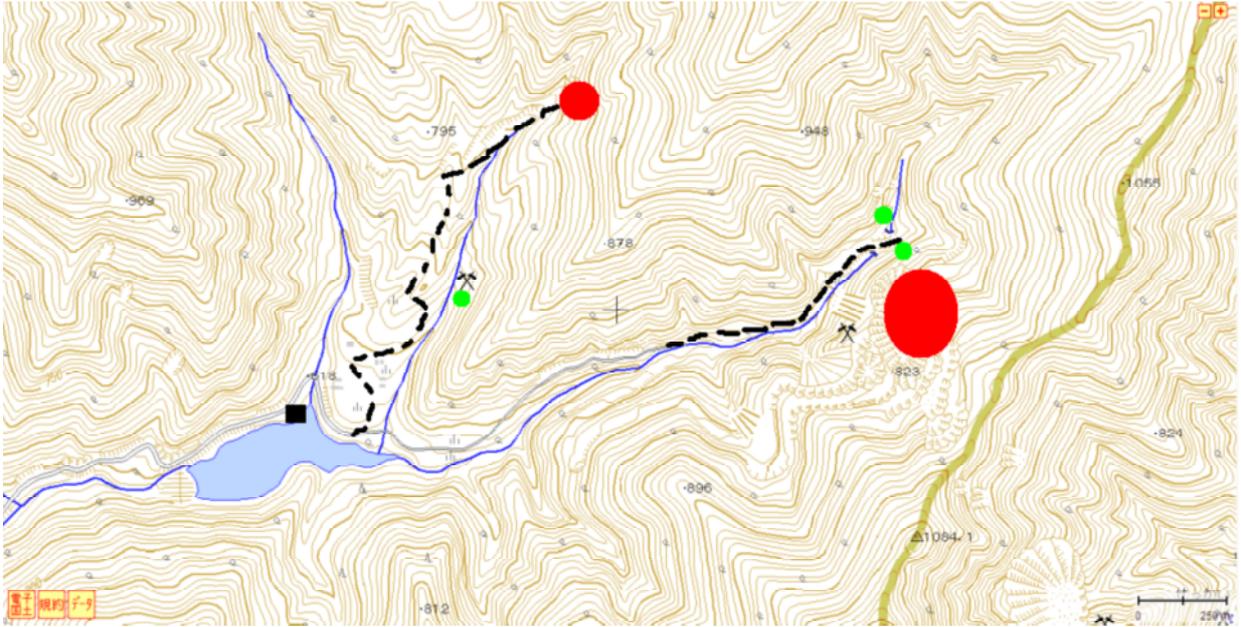


図5 図1の拡大地形図である。国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸は巨大な露天掘り穴である。黄緑丸は坑口跡。上に延びている黒破線は図4中の鉋山道と一致している。東に延びている黒破線は、追加した林道である。ダム脇の黒四角は比左内鉋山史跡案内場所である。林道脇にある。

鉋山跡写真

大峰鉋山跡



写真1 大峰鉋山跡への林道の分岐点である。大峰鉋山跡の道標と案内板である。左側に延びている道を進む。直ぐ先にゲートがあり、大峰鉋山跡に入っていく。道は図5に記されている道とほぼ同じである。いいハイキング道でもある。秋の紅葉時は絶景かも知れない。



写真2 図5で「零米坑」と記されている坑口跡である。坑口から冷気が吹き出している。この坑道の先はどこかで地表にでているということである。



写真3 鉱山道を登っていく。左手に谷を挟んで、現業の鉱山を見る。



写真4 鉱山道を登り詰めた先、喜助沢に入ると、直ぐ上流に、露天掘り跡が見えた。写真中央、木立ちに少し隠れている白い箇所である。



写真5 巨大な露天掘りの跡の極一部分である。カメラの視野が小さくて一部分しか撮影できなかった。写真2の零米坑は、この下まで延びているはず。

日鉄大峰坑



写真6 前記の大峰鉦山跡への入口に戻り、車で、更に林道を進んでいくと、林道は広い平地の所で、終点となる。そこから、東側を向いてみる。林の前方に、日鉄大峰鉦山跡の露天掘り跡に残っている岸壁がある。



写真7 平地の少し先で、林道は終わっている。が、前方にトロッコ用レールが残っていた。足元当たりには、ザクロ石の転石が一杯である。共生関係のわかる「ザクロ石+方解石」の良い標本が、幾つか採集できた。



写真8 前記のレールの先、右側に行くと、コンクリートで作られたかまぼこ型の坑口跡らしい物があった。入口は鉄棒で閉鎖されていた。



写真9 前記のかまぼこ型坑口跡の右側を登ると、目の下は、断崖絶壁である。巨大な露天掘り跡である。これもカメラの視野が狭いので、一部のみ撮影。
写真8の坑口跡は、この巨大穴への出入口のように思えた。



写真10 写真7で示している所から、左側にあった坑口跡。近づいてみると、巨大な縦穴であった。

採集鉱物写真

「ザクロ石+方解石」。簡単に採集できました。



1粒の大きさが3 mm ~ 5 mmのザクロ石の単結晶の集合体。左上の白いのが方解石。他は全てザクロ石の多結晶母体



真ん中の白いのが方解石。周りに2 mm ~ 4 mmのザクロ石の単結晶。他は全てザクロ石の多結晶母体

参考文献

(1)「新岩手県鉱山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版会、2003年。

豆知識

今まで、国土地理院発行2万5千分の1の地形図を、書店で数百円で購入していた。しかし、現在では、国土地理院がホームページで地形図を公開していることに気が付いた。それ以来、この地形図サービスを利用することにした。非常に便利である。今の所、最新版の地形図だけがホームページで閲覧できる。明治以降、測量して得られた地形図は、国土地理院内だけで、パソコンで閲覧できる。必要ならば複写依頼もできる。古い地形図には、現在廃業して存在しない鉱山の場所が記載されている場合もある。古い地形図も、国土地理院外からパソコンで見れるよう、サービスを広げてほしいものである。